



長崎県教職員組合
障害児教育部だより いっぽ(*^^*)



24年度学習会報告

①川口さん講演・座談会

②日弁連人権擁護大会視察

2025.3.16

2024年10月5日 第1回学習会（熊本県 川口久雄さん講演・座談会）をしました。

こんにちは。にじいろの会の川口久雄と申します。小学校に勤務しています。今は、担任を離れて人権教育の担当をしています。これまでの20数年は特別支援学級の担任をしてきました。8年前にやまゆり園の事件が起こった時、私の頭に一番に浮かんだのは、これまで出会ってきた教え子たちのことでした。「もしかしたら、あの子たちの命が奪われていたかもしれない…。」血の気がさっと引いて、そして、激しい怒りがこみ上げてきました。それ以来、学校で「教師」という立場で子どもたち、とりわけ「障害」児と言われる子どもたちに関わる自分にも責任の一端があるのではないかと、子どもたちを「分けている」今の教育の有り様にも原因があるのではないかと考え続けています。（後略）

「津久井やまゆり園事件追悼集会にむけて」より



Mさんと1年生のなかま



・お話を聞いて特に印象に残ったことがあります。1つは M さんの写真の周りの子どもたちの笑顔です。M さんにとっても周りの子どもにとってもお互いに大切な存在。私もお互いの存在を認められるようなクラスをめざしたい。2つめは、設備が整っていても人の心が変わらないと本当の解決にはつながらないということ。自分の言動が実は差別なのでは、と自分自身を振り返り生活していきたい。しっかり声をあげられるようになりたいです。

・教師自身が「自分からつながる」ことが大事だと思いました。川口先生の実践は、全て先生からつながっていかれていると思います。一人一人の子どもたちが自分らしく生きていけるには？どんな大人になっていきたいのか？と将来の姿を見据えて関わっていきたいと思います。

・今日のお話を聞いて、私は「子どもたちを分けてしまっているんだ。」と思い知らされました。例えば、平気で「支援学校に行くべきだよ。」という話を聞いていた自分がいました。M さんと仲間のお話を聞いて、今、自分が担任している子どもたちに「分けない教育」を、一歩いや半歩でも理解して進められるように学習していきたい（いかなければいけない）と思いました。子どもたちを「どうにかしないと。」ではなく、寄り添って一緒に活動していきたいです。



2月1日(土) 山口和俊さん(自立生活センターこころ代表)と語る会 日弁連人権擁護大会事前視察団と



山口和俊さんのお話から

地域の中で小・中学校と育った。小・中学校時代は困ったことは特になかった。当時は支援学級が無く、おかげで地域の普通学級に入ることができた。小学生の時は少し歩くことができたのでサッカーをして友だちと遊んでいた。高校は、住まいからは離れた私立高校へ。思春期は親に介助をしてもらうのは嫌だった。親のサポート無しで、地域にサポートしてもらって生きていくことが必要。親にも親の人生がある。ながさきCILこころを立ち上げた。介助者(カズサポ)は職業であり、山口さんが雇い主である。施設が整い過ぎると、自立生活者が少なくなると思う。

『#どんな重度な障害があっても、地域で選択肢のある日常を送るような社会が変わっていく後押しをする』←カズさんのインスタグラム、フェイスブック等でも、この学習会のことが紹介されています。



2/1 日弁連の弁護士さんたちとの交流会

全国教研インクルーシブ分科会の共同研究者の黒岩海映さん他、九州、全国各地から「子どもの権利」や「就学問題」等に関わっている弁護士さんたち。12月11日の人権擁護大会に向けて、奔走されています。

2/2 保護者との懇談会

長崎市内小学校の保護者と日弁連視察団との懇談会を行いました。「なぜ支援学級を選んだのか?」「学校や行政等に望むこと」「どんな支援必要か?」等、保護者と私たち教職員がインクルーシブ教育への思いや実情を語り合いました。



25年12月11日(木)長崎市出島メッセで、第67回人権擁護大会シンポジウムが開催されます。第1分科会では、「分ける社会を問う!~地域でともに学び・育つインクルーシブ教育、ともに生きる社会へ~」をテーマにシンポジウムが開催される予定です。教職員、保護者、市民のみなさんどなたでも参加可能とのことです。日弁連のホームページで、24年6月の大阪でのシンポジウムの動画視聴が可能です。(25年6月まで)

(「日弁連シンポジウム インクルーシブ教育」で検索)

25年度も学習会を開催します。(10月4日(土)の予定)

インクルーシブな社会をめざして、
これからも、共に学び続けましょう。



障教部